

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



【特集】チャレンジする島大生たち
学生ので地域を
もつと元気に！

vol. 39
shimadai 2019.1

【特集1】学長スペシャル対談

「2040年問題」というキーワードを耳にしたことがあるでしょうか。高齢化率がピークを迎え、社会保障給付費が現在の約1・6倍になる一方、就業者数は今より1000万人も減ると言われています。教育に目を移してみれば、今年生まれた子供が大学を卒業するタイミングとなるのが2040年です。AIがより進化し、超スマート社会が予測される時代、人間に求められるスキルや能力は大きく変化してきます。高等教育機関も、個々の可能性を最大限に引き出せる場としての役割が期待されています。創造性豊かな人材育成について、島根大学の服部泰直学長と島根県立大学の清原正義学長が思いを語り合いました。

島根県立大学学長
島根県立大学短期大学部学長

島根大学 学長

服部 泰直 × 清原 正義

Hattori Yasunao

Kiyohara Masayoshi

特集 1 学長スペシャル対談

来たる超スマート社会に向けて 島根の大学が目指すもの

vol.39 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①人間科学部 杉崎 千洋 教授 11
- ②医学部 千貫 祐子 講師 13
- ③総合理工学部 小俣 光司 教授 15
- 特色ある教育 17
- 社会で活躍する卒業生
- 和幸株式会社 稲田一輝 さん 19

- しまだい便り 21
- しまだい's サークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 島根スサノオマジック活動紹介
読者プレゼント 26

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙 / 美保関での古民家改修の様子



高大連携を強化して 島根の高校生を 自県の高専教育機関へ

服部学長(以下服部) AI(人工知能)やICT(情報通信技術)の発達による超スマート社会に求められる人材は既成概念にとられない柔軟な思考力に基づき、人間にしか生み出せないものを創造していく力がより重

要となります。大学の使命として未来を構築する人材の育成があります。また、地域とコミュニケーションを取りつつ、地域に貢献できる人材育成も大きな役割の一つです。

島根大学は入学者の約25%が県内出身者で、卒業生の約70%が県外に就職しています。しかし全国的には、自県の大学に進学する高校生の割合は

もつと高い。自県の大学を進路として選ぶ学生は地元志向が強く、県内就職に結びつく可能性も高いです。まずは県内高校生の島根大学への進学率をもつと上げたいですね。

清原学長(以下清原) 島根県立大学は、浜田、出雲、松江に3キャンパスありますが、トータルの県内進学者は約5割。さらに増やすために、学部改組などを含めた入試改革と高校との連携強化を進めていくつもりです。

高校生が地元の大学ともつと接点を持つことも大切なのだと思います。島根大学が新しい高大接続の取り組みとして行われた「ダイガクジャーニー[※]」も見習いたい点の一つです。高校生が大学全体の機能に注目して学内を取材、レポート記事を書くことで深い視点で大学の魅力を知ることができたと、参加した高校の校長から聞きました。今後例えば、高校生に一定期間トライアル入学させて単位を与えるなど、高大が連携して人を育てる新たな仕組みが生まれても面白いのではないかと思います。

また県内進学率が低迷する原因の一つとして、高校の先生方や保護者の方々の

※ダイガクジャーニーの詳細内容は、P23をご覧ください。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2019.01 vol.39

【特集1】

学長スペシャル対談

島根県立大学学長/

島根県立大学短期大学部学長 清原正義氏 01

【特集2】

チャレンジする島大生たち 05

間に「県外に出た方がいい」という文化のようなものがあるように感じます。我々は、県内にある高等教育機関の素晴らしさをもっとアピールする必要もあるでしょうね。

服部 住んでいる地域や通っている学校によっては、当初から大学進学が自分のキャリアに入っていない高校生もいます。まずは彼らに大学の面白さを伝え、進学によって生まれる新たな可能性も示していきたいですね。

2040年には18歳人口が今よりも約30万人以上減少して88万人になると予測されています。大学進学が念頭になかった学生たちの意識を変えて、同時に県外への流出を

留める仕組みが求められています。

島根大学では以前から、全学部において山陰両県の出身者で地域貢献の意識の高い学生を地域貢献人材育成として受け入れてきました。さらに新たな取り組みとして、共通テストを課さない特別入試を一本化し、将来的には特別選抜による入学者数の割合を40%まで高めていこうと考えています。アドミッションポリシーを明確に示し、多様な感性や特技、特性を持った学生たちを呼び込み、育てることができると考えています。

地域との交流を深め、 島根に魅力を感じる 人間力のある人材を育成

清原 うちにも「県内枠」がありますが、今後もっと大々的に売り出し



清原 正義

1947年 島根県松江市生まれ。1980年4月兵庫県立姫路工業大学講師、2002年4月兵庫県立姫路工業大学付属高等学校校長、2004年4月兵庫県立大学環境人間学部長、2010年4月兵庫県立大学学長、2013年 兵庫県立大学理事長、2017年4月島根県立大学学長。

ていく予定です。島根大学には県内からも多くの学生が受験されますが、不合格だった学生が決して県立大には来ていません。日程や学部などの関係もありますが、学生がもう少し島根に留まってくれるようにもつと努力したいと考えています。

人材流出を防ぐためにもう一つ大切なのが、地元企業に就職する学生を増やすことです。例えばインターンシップ制度も多様化させ、3カ月程度の中長期的なものや、1週間ごとに半年間通うような形があると、学生が企業を多角的に見ることができるとも思いません。

服部 イターンで島根に來られた方に話を聞くと、「地域で生きる」という人生観を持つておられます。どこそこの企業で働くことが念頭に來るのではなく、人生観の一端に仕事や職場が位置付けられて学生

が就職先として県内企業を選択するためには、テクニカルに企業を知ってもらうのも大切ですが、その前段階として、学生たちに人生観を変える、あるいは発見させてあげられる、「地域で生きる」と思ってもらえるような経験をしてもらうことが大事なのかと思いい始めています。

島根には魅力ある人や企業、地域がたくさんあります。様々な交流や活動を通じて、学生らの考え方や人生観を変える出会いを作る取り組みができればと思っています。

清原 学生が地域に出て色々な方々と共に活動すると、間違いなく目に見えて学生は成長します。私は、経験や体験が学生の成長にとつて重要であることを確信しています。多くの企業は、大学の成績云々ではなく、人間力のある人材を求めています。大学のカリキュラムに「人間力」はありませんが、教室の外で多くを経験を積み重ねていくことで、社会が求める人材に育って行くようにも思います。日経グローバルが発表している大学の地域貢献度ランキングで島根大学は18位に躍進されましたが、県立大は234位。誰に



話しても笑われますが、私は県立大を全国1位にするのが目標です。

大学の魅力を高めるためには、高校、地元自治体、企業との連携に加え、同じ島根にある島根大学との連携もより強めていきたいと考えています。

切磋琢磨しつつ タッグを組んで 島根の課題を解決

服部 県立大とは既に地域貢献人材育成に取り組む「COC+事業」などで連携しており、特に年に一度の「しまね大交流会」は、学生や県内の

自治体や企業にも好評です。また、県立大と協力して県内進学者の掘り起こしに力を入れたいですね。出雲、松江には互いのキャンパスがあります。せつかく近くにキャンパスがあるので、もつと在学生同士の交流も進めていければと思います。また研究設備などを互いに活用し合うことも検討していても良いように感じています。

清原 学生数6000人規模の中堅国立大学である島根大に対し、県立大は2000人程度の小規模大学。連携によるメリットは県立大の方が大きく、ぜひ進めさせて頂きたいです。人材流出は県政の課題でもあります。島根県教育委員会を間に立てて、具体的に高大接続を進めていければ、全国的にも珍しい島根モデルが出来上がるのではないのでしょうか。県内の高校は、積極

的に魅力化推進事業を推し進めています。このカリキュラムを断絶せずに、大学に繋げていく方法も考えていきたいです。

在学中の学生に対しては、両大学が共同で地域にサテライト教室を開催して、地域と共に研究を進めるようなスタイルも取れるのでは。大学はまだまだ、殿様商売的なところがあり、情報も人も内部に留まっています。より県民に開かれた大学になっていくべきです。

服部 島根大学の全ての学生、教職員誰もが誇りを持てるような大学であり続けるためにしっかりと取り組んでいきたいと思っています。同じ地域にある高等教育機関として、県立大学とは今後面白い意味で切磋琢磨しつつ、タッグを組んでいきたいと考えています。お互いに頑張りましょう。



服部 泰直

1956年長野県生まれ。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長、2015年4月島根大学学長。趣味はサッカーで、国体出場経験もあり。

Keyword



しまね大交流会2017の様子

未来を担う若者と地域との出会いの場 「しまね大交流会」

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の目玉事業として平成27年度から毎年開催しています。主に島根県及び鳥取県内の大学生・中高生の地元への就職・進学への幅を広げ、地域への若年層の定着を図るキャリア教育の一環として、島根大学を中心に、島根県立大学・同短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県・経済団体などで作る実行委員会が主催しているものです。昨年度は、島根・鳥取の企業・行政・大学研究室等約209ブースの出展、学生・生徒約1200名を含む2200名を超える来場があり、会場は若者と大人の交流で熱気に包まれていました。

学生ので地域をもっと元気に！ チャレンジする島大生たち

島根大学の学びのフィールドは学内だけにとどまりません。現在、多くの島大生がキャンパスを飛び出し、自主的に活動しています。今回は、地域で活躍する2組の学生グループを紹介します。

case
1

「島大Spirits」がチャレンジ！ 木次線活性化プロジェクト



地域のニーズに応じて様々な活動を行う「島大Spirits」(スピリッツ)。2018年に木次線利用促進プロジェクトの一環で、出版社と共同でガイドブックを作成しました。

学生ならではの視点で 木次線沿線の魅力を紹介

2018年2月27日、「木次線ローカルガイド」がハーベスト出版より発売されました。同出版社の編集部とともに、この本の編集に携

わったのが、地域活性化サークル「島大Spirits」(以下島スピ)です。きっかけは2016年に遡り、三江線沿線魅力化プロジェクトに島スピが参加したことでした。このプロジェクトの一環で、同出版社と



学生が担当したページの一部



ともに、三江線沿線の魅力を伝える「三江線BOOK」作成。この実績もあって、木次線全線開通80周年を機に実施された木次線の利用促進事業のひとつとして、沿線ガイドブックの作成に参加することになりました。

定番をおさえつつ、地元の人しか知らないような情報も盛り込むことで、観光客はもちろん、地元の人にも沿線の魅力を再発見してもらえるように工夫。学生2名につき見開き2ページを担当し、どのような



VOICE

知っていることでも別の視点で見ると新しい発見があることに気付かされました。今回、鉄道を軸に地域について考えられたことは良い機会になりました。木次線をはじめとするローカル鉄道について考えたり、乗ったりする機会を増やそうと思います。



法文学部
法経学科 3年

伊藤 薫 さん

近くにあるにも関わらずあまり知らなかったJR木次線の魅力を私自身も知ることができました。どうしたら伝えたいことを伝えられるのか、出版社の方々や他の学生と試行錯誤したおかげで、文章を作成する際の考え方が変わったと感じています。



法文学部
社会文化学科 3年

佐藤 鈴夏 さん

学生さんとの交流は、お互いに学ぶことができる貴重な機会でした。出版活動は人と人、人と地域をつなげるコンテンツづくり。学生さんには、地域社会の一員としてどのように社会に貢献するのか考えながら活動してみたいです。



ハーベスト出版
編集部

福田 衆一 さん

社会人が学生と接する機会はそんなに多くはありません。私自身、学生と接することから様々なものを吸収するとともに、学生ならではの視点を生かした企画の立案にも役立てたいです。今後も大学生とぜひ一緒に本づくりをしたいです。



ハーベスト出版
編集部

沖田 知也 さん



テーマでページを作るか、出版社の方のアドバイスをもらいながら検討し、実際に現地へ何度か足を運びました。プロジェクトの学生リーダーをつとめた法文学部の伊藤さんは、「参加メンバーの多くは木次線に乗るのも初めてだったので、沿線に関する情報をあまり知りませんでした。だからこそ、学生それぞれが実際に現地で感じ、発見した木次線沿線の魅力を、読者と同じ目線で伝えられたと思います」と振り返ります。

発売後は、雲南市で木次線利用促進プロジェクトのひとつとして成果報告をおこなったほか、木次さくらまつりや、大東ほたるまつりなどでも学生自ら出店して販売、学内でも成果報告をおこなうなど、ガイドブックの周知をはかるとともに、木次線沿線の魅力を伝えました。「これまでは単純に交通手段としてしか見ていなかったローカル鉄道ですが、その沿線も含めた枠組みで考えた時に、そこにはコミュニティがあつて、人と人を繋ぐ役割も果たしていることに気付かされました」と伊藤さんは言います。この活動を通じて、ローカル鉄道の地域における存在意義について考えるきっかけにもなったようです。

case

2

「総合理工学部 建築デザイン学科」が挑む! 美保関古民家リノベーション計画



古きよき町並みを今に残す美保関町。この一角に、現在は空き家となっている築103年の古民家があります。この町家を有効活用するため、地元企業の協力のもと、総合理工学部建築デザイン学科の学生たちが改修に取り組んでいます。

職人さんの協力のもと 美保関の歴史を表現

古民家改修プロジェクトの発端は、偶然の出会いから始まります。2017年夏に、すでに卒業した学生が、卒業研究で美保関の調査を行っていた時に、偶然この町家の所有者の方と出会ったことがきっかけでした。

その際に、空き家を「自由に改修していいよ」と声をかけてもらい、木造建築でまちづくりを目指す「島根大学ウッド・デザインプロジェクトセンター」の研究教育の二環で取り組むことが決まりました。若者に伝統建築の技を伝えたいと、金見工務店や中村技建工業の職人さんもボランティアで参加、学生たちに建築技法を教えてくださいました。



ます。

現在2代目の学生リーダーを務める下野さんは、「これまでは考えてこなかった詳細の図面や地域性を踏まえ、た設計案の作成、施主さんや協力企業の方と直接やりとりをしたり、コストを考えた材料を選んだりと、初めての経験だらけでした。工具の使い方も職人さんから初めて習いました」。

学生が担当するのは、古民家2階の1部屋です。まずは美保関の立地や特長を踏まえ、学生メンバーでいくつかの改修案を作成、所有者の方との打ち合わせを重ねながら、少しずつ修正し、最終的に「分かる美保関」をテーマに、雨戸や照明、壁に、美保関の町並みや五本松、遠くに見える大山、帆船など、美保関に関する絵を描いて、美保関の歴史を表現。美保関のことを知らない観光客に向けてはもちろん、地元の人にも歴史に触れてもらえる仕掛けを随所に施しました。

2017年11月に解体作業がはじまり、いよいよ改修プロジェクトがスタート。昔の面影を残すために、新しい柱にあえて柿渋を塗り自然な色合いを出したほか、中村技建工業の会長の指導のもと、多くの学生が土壁塗りも体験しました。また、大学での学びを生か

VOICE

自分たちでの施工は、コストや現実性など普通の授業では考えないことを考慮しなければいけないので、貴重な体験ができています。リフォームメーカーへの就職が決まっているので、現場作業を知れたことは今後大いに役立つと思います。



総合理工学部
建築・生産設計工学科 4年

下野 一樹 さん

現場へ出向き体験すること、工具を使ったり土壁を塗ったりと、学内では学べないことばかりです。先生や先輩との繋がりが増え、建築に関する知識を教えてもらうのはもちろん、学校生活や就職についてのアドバイスも聞くことができました。



総合理工学部
建築デザイン学科 1年

平川 真衣 さん

最初は工具の使い方や材料名も分からなかった学生たちが徐々に成長する過程を見守っています。古民家という建築物は、その地域の住民にとって貴重な財産だと思うので、これを機に「地域に根差した建築空間」についても考えてほしいです。



総合理工学部
建築デザイン学科

井上 亮 助教

現場作業を通して、施工する側の気持ちを感じ取ってもらえたらと思っています。今回の事業のように、学生と企業の意見交換や、学生が企業に出向く機会がもっとあれば、島根県内にある企業を知ってもらい良いきっかけにもなると思います。



株式会社金見工務店・
工務グループ 大工

松浦 諭 さん



してコンピュータグラフィックスで建物を再現し、VRによるデザインや耐震補強の検討もおこないました。「技術的なことはもちろんですが、物事を自分たちで考えながら進めていくこと、地域の人と関わる機会をもらえたことは、将来の大きな財産になりました」と下野さん。設計から施工までを行うことで、自分たちが作った計画が施工しやすいのか、そうではないのかといった、現場の職人さんの気持ちも体感するとともに、職人さんと触れあう中で、昔の技術の良い部分を残していくことの必要性も感じたそうです。完成は2019年2月予定、学生たちが施工した部屋は多目的スペース



として活用される予定です。このような地域における学生の活動が、最終的には地域の活性化につながっていくことが期待されます。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、89の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。



留学先

アメリカ(フロリダ大学)

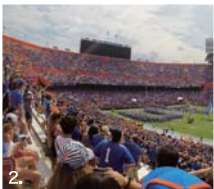
つるぼう けんや
鶴房 賢弥 さん

(法学部 言語文化学科4年)

想像もしていなかった将来像
留学が可能さを広げてくれた

3年の夏休み、留学するなら今しかない
と思い立ってから1ヶ月間猛勉強し、秋に留
学しました。自分の苦手分野が克服できる
ように、ライティングやスピーキングを中心
に受講し、授業外でもネイティブの人と積
極的に話すようにしていました。留学中にポ
ストンの就職イベントに参加したのを機に、
海外就職も視野に入れるようになりました。
大学卒業後には、アメリカでビジネス資
格認定プログラムを受講し、ビジネスに関す
る知識を身につける予定です。

留学前には考えてもみなかった未来が少
しずつ見えてきています。英語が話せること
で、人種をこえた交流ができるようになり、
人との繋がりも格段に広がりました。自分
だけの力ではなく、費用の面で家族のサ
ポートがあったからこそ得られたものだと思
っています。



1. 留学生寮の友人たちと一緒に。様々な国から集まるため国籍も様々。
2. フロリダ大学のアメリカンフットボールの試合の様子。多くの学生と地域の人が応援にかけつけ、大きな盛り上がりを見せていました。

FROM



ベトナム

出身国



ドー・ティー・フエ

Do Thi Hueさん

(法文学部 言語文化学科 2年)



2.

1. 10月に開催された島根大学凧風祭での一コマ。ベトナムの民族衣装でベトナム屋台を手伝いました。
2. 宍道湖の夕日を見に行った際に撮影。幻想的な光景に感動!



1.

いろんなことに挑戦中!
将来の選択肢もたくさん

広島県の日本語学校で2年学んだ後、日本語学校出身の先輩の方の薦めもあり島根大学に入学しました。日本人学生と同じカリキュラムなので、授業で分からないことも多々ありますが、友人や先生方に助けてもらいながら学んでいます。最近では異文化交流の授業を受けていて、各国のファッションの比較に興味があります。日本とベトナムを比べても、服装や髪形の違いがありますが、その特徴やルーツについて調べているところです。課外活動では、障がいのある人をサポートする資格を大学で取得し、現在は松江市内にある放課後クラブに毎週末通って子どもたちと接しています。授業や課題活動、アルバイトと忙しい日々ですが、興味のあることには積極的に取り組んで、そのいずれかが将来に繋がればと考えています。

TO



中国
(東北師範大学)

留学先



えびみ しょうへい

江角 匠平さん

(総合理工学部 理工特別コース
数理・情報システム学科 4年)



2.

1. 仲の良い友人たちと、大連老虎灘海洋公園に行ったときの一コマ。2. 吉林省の冬は日中も氷点下。キャンパス内の湖が凍り、その上に雪が積もっている様子。



1.

統計の研究が盛んな地で
自らの専門性を深める

これまで語学のイメージが強かった留学ですが、大学院自然科学研究科にダブル・ディグリー制度があることを知り、世界で自分の専門を学ぶ意味があることに気づき、留学に興味がありました。僕は数理統計を専門に学んでいますが、留学先の大学には統計学を専門とする先生が多く、授業の内容も日本よりかなり進んでいると感じました。留学中に様々な国の学生とともに学び、留学を終えた今でも連絡をとりあう仲間が世界中にできたことは、留学してよかったと思える点です。それに、今まで常識と思っていたことがそうではなかったことに気づけたことも収穫でした。卒業後は中国の大学院に進学したいと考えています。中国は秋入学なので、年明けの入試に向けて卒業研究と並行して準備を進めているところです。

※ダブル・ディグリー制度(双方向学位制度)

島根大学大学院自然科学研究科博士前期課程の学生と東北師範大学数学と統計学院碩士課程の学生が、それぞれ相手側の学生として入学し、相手側の大学院における教育課程を修了することによって、両大学の修士の学位が取得できる教育プログラムのこと。

医療・社会福祉の連携で 患者や高齢者の生活を 多方面から包括的にケア

社会福祉の観点から 患者を支援する必要

杉崎教授は高校3年生の時、バイクの事故で脊髄を損傷し、車いす生活を余儀なくされました。2年間の入院中に医療ソーシャルワーカー（SW）という職業を知り、退院後の生活支援など社会福祉の観点からの患者ケアに関心を持ち始めたそうです。「当時は、車いすユーザーに対する大学の門戸は狭く、仕事も非常に限られていました。患者や家族の相談に応じる医療SWなら、私にも挑戦できると考えました」。

日本福祉大学に進学。患者を医療的にケアする仕組みがあるのに対し、社会経済的に支える視点が弱い現状に疑問を感じるとともに、障

病気やけがの治療が終わって退院後、住み慣れた場所でのその人らしい生活を送るためには、地域の複数の医療・社会福祉・介護機関などの総合的な支援が欠かせません。人間科学科の杉崎千洋教授は、近年浸透してきた医療の地域連携の重要性に20年以上前から着目、現場とタイアップした研究に力を注いできました。



PROFILE

人間科学部 人間科学科
杉崎 千洋 教授

車いすユーザーで人工透析もしている教員を雇ってくれる大学はなかなかありませんが、島根大学では既に20年近くお世話になっています。当事者の私が教壇に立つことで、誰もが生き生きと暮らせる地域の医療や社会福祉のあり方を、学生らがより身近に考えてくれれば。



	反映の程度				反映状況			
	反映度高い		反映度低い		反映合計 (①+②+③)	反映 (再掲)	非反映	提案数 合計
	① 施策や 数値目標に ついて	② 現状と 課題に ついて	③ 施策や 数値目標の 表現について	小計 (②+③)				
患者	8	1	4	5	13	13	28	41
構成比	61.5%	7.7%	30.8%	38.5%	100.0%	31.7%	68.3%	100.0%
拠点病院	9	10	6	16	25	25	26	51
構成比	36.0%	40.0%	24.0%	64.0%	100.0%	49.0%	51.0%	100.0%
その他	8	2	4	6	14	14	13	27
構成比	57.1%	14.3%	28.6%	42.9%	100.0%	51.9%	48.1%	100.0%
合計	25	13	14	27	52	52	67	119
構成比	48.1%	25.0%	26.9%	51.9%	100.0%	43.7%	56.3%	100.0%

2 委員区分別提案の反映状況、反映の程度

1. 11月にくにびきメッセで行われた「第52回中国地区医療社会事業大会」の様子。各県の事例報告で、コーディネーターを務めた。2. 杉崎教授の行った「がん対策推進計画策定・評価への患者参加のアウトカム評価—鳥根県がん対策推進協議会における委員提案の反映状況分析より—」と題した論文より（一部省略）。鳥根県が提示した基本案に対して患者やその家族等、拠点病院関係者、その他に分類した委員の提案がどの程度計画策定に対して反映されたかを示した図表。患者代表委員の行った提案も他の委員と遜色ない水準にあることが分かり、積極的、建設的な役割を果たしていることが示されている。3. 杉崎教授の編著・共著の数々。



がいの者の権利保障運動を進めるアメリカの当事者に刺激を受け、政策を提言できる研究者としての道を選んだそうです。

長年取り組んでこられたテーマの一つが、退院支援です。医療制度改革によって急性期病棟の在院日数短縮化が進む中、退院後も視野に入れたケアの必要性がより高まってきました。「重い障害や病気を抱える患者は、退院後も施設に移ったり、ヘルパーを使ったりしなければ生活できません。病院はまず、退院後にケアが必要な患者を早く見つけて支援の方法を提案していくことが求められていました」。大学院を卒業した杉崎教授は愛知県内の急性期病院に定期的に通い、看護師や医療SWの協力を得て現場の支援状況を調査。病棟ごとに支援差があることなどを指摘し、最終的には病院全体での標準化につながりました。

複数の機関が連携して 切れ目ない支援を

患者を切れ目なく支援するために、一つの病院内だけでなく、他の医療機関や社会福祉サービスとの連携

も不可欠です。1999年に鳥根大に赴任した杉崎教授は、急性期病院の松江赤十字病院と、回復・慢性期の患者を診る鹿島病院を対象に調査・研究。地域連携を進める中で、密な情報交換が行え、患者のスムーズな受け入れや送り出しが進んでいくことが分かりました。「患者によって支援のニーズは一人一人異なります。医療SWだけでなく病院全体、患者に関わるすべての人々の意識、連携が重要です」。

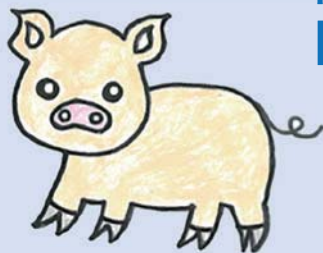
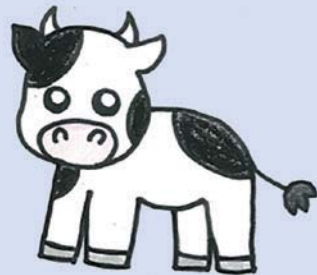
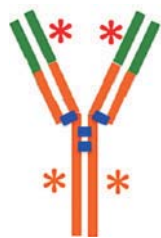
独り暮らしの高齢者が増えていることから、松江市の高齢者見守りネットワークの現状も調査し、現在分析中です。傷病の疑いで通報があると、病院に運ばれることがあります。しかし外来の診察後はそのまま帰宅となり、フォローは十分でない場合も少なくない、杉崎教授は考えています。「医療SWが生活状況をヒアリングすれば、隠れていた問題が浮かび上がることも。緊急時の対応を分析することで、より良い地域包括ケアシステムが構築できるはず」と話します。

障害や病気があっても、患者本人の意思を尊重し、状況を改善できる環境が整っていれば、その人らしい生活を送ることができます。杉崎教授は自らの経験も生かしつつ、要支援者へのさまざまな連携のあり方を探っています。

研究と臨床を積み重ね 食物アレルギーの 発症メカニズムを解明

獣肉アレルギーの関連図

獣肉アレルギーのアレルゲンはある種の抗癌剤(セツキシマブ)のアレルゲンと同一である。



マダニ

獣肉アレルギーを発症すると、交差反応のためにカレイ魚卵にもアレルギーを発症する。

石けん使用で発症した 食物アレルギーを解明

食物アレルギーとは、特定の食べ物に含まれるタンパク質などに体内の免疫機能が過剰に反応する状態。『異物』を排除しようとして、発疹や咳、ひどい時には意識を失うなど命に関わる症状も引き起こします。アレルギーは、口からだけでなく、気道や皮膚からも摂取されます。小麦由来の成分が入っている石けんを使ったことでアレルギーが発症した事例は、全国的な社会問題にもなりました。この事例を解明したのが、千貫講師らが所属していた森田栄伸教授の研究グループなのです。「成人の小麦アレルギーの主な原因が、ω5グリアジン(ω5G)という小麦タンパク成分

ウイルスや細菌などの病原体から、私たちの体を守ってくれる防御システム「免疫」。しかし本来無害なものに対して過剰に反応して、逆に体に有害な症状を引き起こす状態が「アレルギー」です。医学部の千貫祐子講師は、中でも食物アレルギーの研究に力を入れ、患者の治療に結びつけています。

PROFILE

医学部 医学科 皮膚科
千貫 祐子 講師

ちぬき ゆうこ

小学生の頃、弱毒ウイルスによるイボが両手の甲全面に出たことで、いじめを受けました。3歳上の姉がアトピー性皮膚炎に苦しむ姿も間近で見えており、皮膚科を選ぶきっかけになりました。皮膚は目に見えるため、時に誹謗中傷の対象となり得る不合理さは誰よりも感じていましたね。

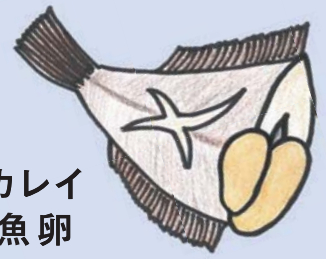




A型かO型

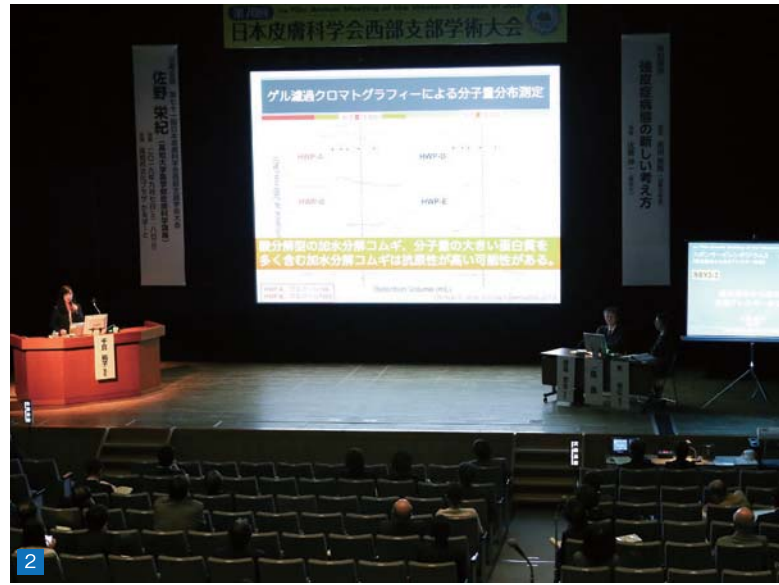


獣肉アレルギーは血液型A型またはO型が発症しやすい。獣肉アレルギーは屋外で犬を飼育している人が発症しやすい。



カレイ魚卵

Chinuki Y, et al. Allergy 71: 421-425, 2016
千貫祐子, 他: 日皮会誌123: 1807-14, 2013



1. 獣肉アレルギーの相関図。獣肉アレルギーの感作原因(アレルギーが成立する原因)は、気づかないうちにマダニに咬まれていることあり、獣肉アレルギーのアレルゲンはある種の抗癌剤(セツキシマブ)のアレルゲンと同一であることが分かっています。2・3.島根県で行われた学会での発表の様子。臨床医が選ぶ若手講師(講演者)おすすめランキング皮膚科部門で日本一の評価を受けている千貫講師は、全国各地で多数の講演を行っている。



であることは同研究グループが既に解明していました。しかし2009年くらいから、w15Gの検査では陰性になるのに小麦を摂取するとアレルギー症状が出る患者さんが出てきました。彼女らは皆、目の腫れを訴えていました。その患者さんの一人が関係性を疑って診察室に持ってきたのが、石けんだったのです。

目が腫れた患者さんに問診すると、全員同じ石けんを使っていたことが分かり、わずかな期間で39人もの人が小麦アレルギーを発症していました。w15Gとは違う小麦由来タンパク成分が原因でした。千貫講師らは、販売元に指摘、最終的には企業の自主回収に繋がりました。「全国で少なくとも2000人以上もの消費者がアレルギーになったことが分かっています。毎日の洗顔で臉の皮膚という弱い部分に浸透し、体内に侵入したのでしょうか。当初は石けんが原因だとは思ってもありませんでした。大切なことはいつも患者さんが教えてくれます」。

患者の声に耳を傾けて アレルギー症状を改善

マダニを介した牛肉アレルギーの解明にも尽力されています。牛肉を食べべてじんましんが出たという患者の診察を機に疫学的調査を進め、アレルギーを誘引したのは患者が飼っているペットについてマダニと解明。さらにマダニ由来成分に対する抗体が、「セツキシマブ」という抗がん剤のアレルギーも引き起こしていることも分かりました。「多くの食物アレルギーは摂取2時間以内で症状が出ますが、牛肉の場合10時間以上経ってじんましんが出る人も。患者さんとの会話の中で、少しずつ分かってきたのです」。千貫講師は現在、患者にセツキシマブを投与する前に行う血液検査の保険適用を訴えています。「マダニ由来成分に対する抗体を持っている患者にこの薬を投与すれば、ショック死する人もいます。必ず検査する体制を整えるべきです」。

アレルギーの臨床、研究に力を注ぐきっかけになったのは約15年前、学会で薬剤アレルギーの研究発表を聞いたことだそうです。「患者さんのために何かを発見し、役に立ちたい、と強く思い始めました」。初心のまま、患者の声に丁寧に耳を傾け、研究や治療を推し進めておられます。

新触媒の開発や改良で 有機資源の活用を提言 AIを活用した技術も導入

〳人工光合成〳で 炭酸ガスを有効利用

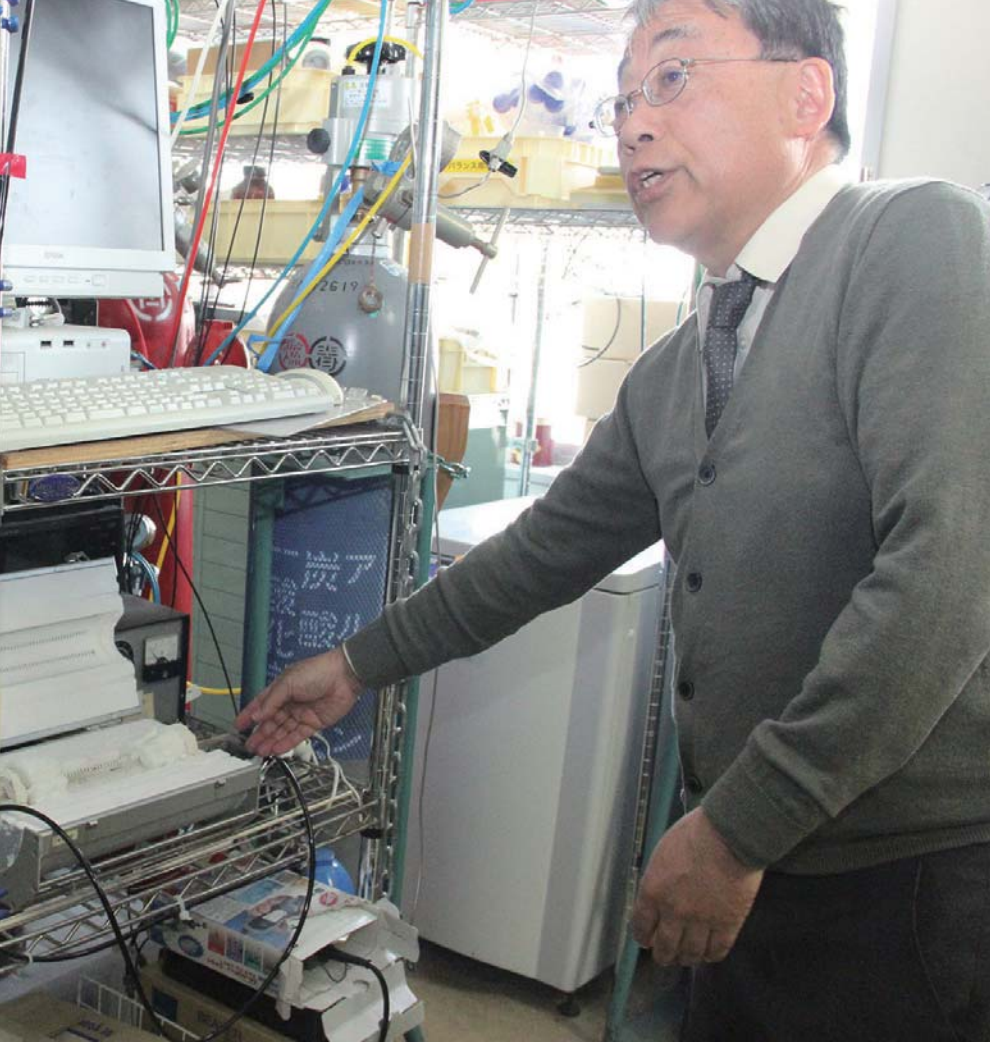
植物が太陽光エネルギーを用いて、二酸化炭素と水から炭水化物を合成し、酸素を放出する「光合成」。長年、炭素を液体燃料に変換する触媒の研究を続けてきた小俣教授は、この植物による〳化学反応〳にヒントを得た「人工光合成」の研究も手掛けています。まず太陽光発電で生み出した電気で、水を水素と酸素に分解。得られた水素と、二酸化炭素を化学反応させて、合成樹脂や合成繊維などの原料として幅広く使われているメタノールを生み出すのです。「空気中のCO₂は濃度が薄くて難しいですが、発電所から排出されるCO₂は濃度が高く、十分な反応を起こすことができます。太陽

温室効果があり、地球温暖化の主要原因とされる二酸化炭素。しかし他の物質と化学反応を起こさせることで、新たなエネルギーを生み出す可能性も報告されています。化学反応を促進させる「触媒」を研究している、物質化学科の小俣光司教授は、触媒の開発や改良による有機資源の活用を提言しています。

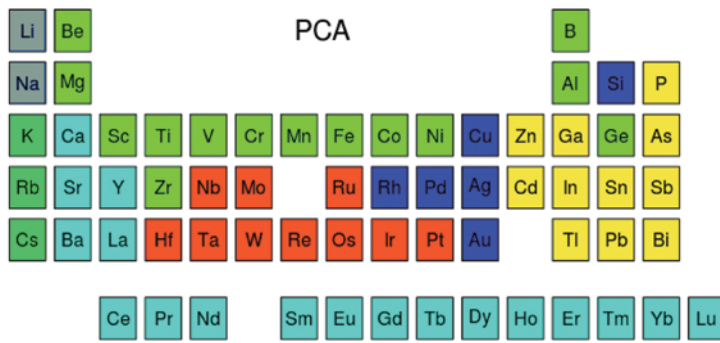
PROFILE

総合理工学部 物質化学科
小俣 光司 教授
おまた こうじ

マテリアルインフォマティクスでは、実験データの解析などで「R」というプログラミング言語を使います。実は学生の頃から、教授から「プログラミングより実験をしろ」と怒られていたくらい好きだったので、触媒開発に生かせることができているんですね。

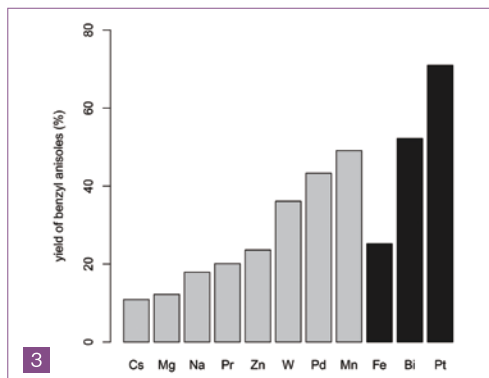


k-meansクラスタリング法による再分類

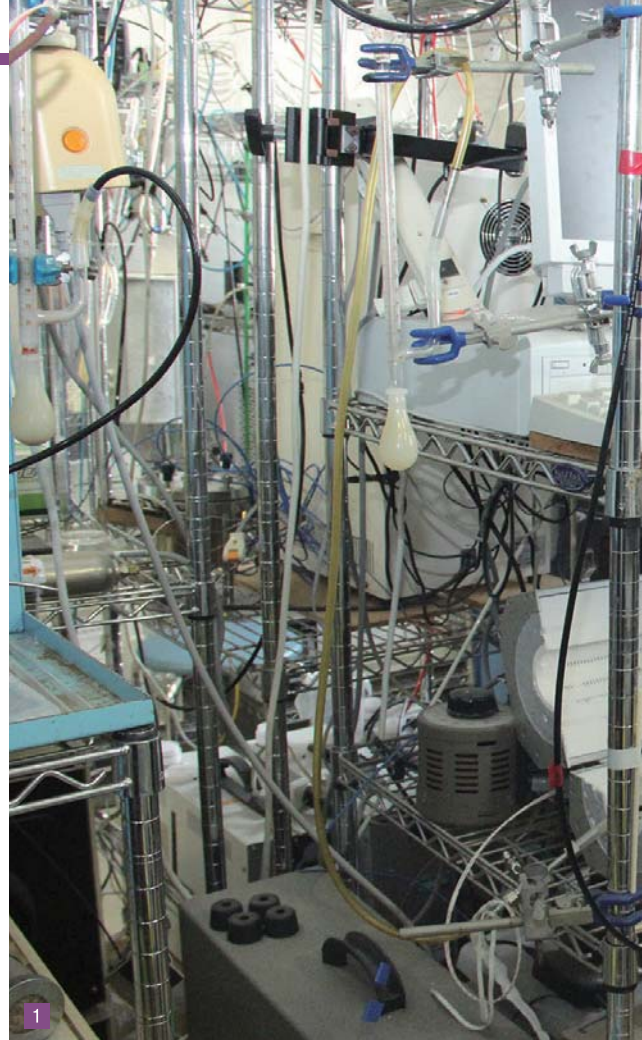


2

1.小俣教授の実験室。写真は三元触媒装置。実験にあたって、手作りする器具も多いという。2.データサイエンスの活用によって、最適な触媒を見つけるための手法のひとつ、k-meansクラスタリング法によって分析しなおした周期表。色分けしたものが比較的似た性質を持っている。5主成分を元に7グループに再編し、各グループから代表を1~2つ、トータル8つを選びだすことで、すべての元素を代表する元素が選ばれたと考えることができる（Na、Cs、Mg+Mn、Pr、W、Pd、Zn）。3.触媒の活性を調べた実験結果。黒グラフがコンピュータが導き出した最適触媒。Pt（白金）は実際の実験結果でも最も活性が高く、この実験手法の有効性が分かる。



3



1

人工知能を活用した触媒のデザインも

光エネルギーの利用率が非常に高いことも有用性の一つです」と小俣教授。

この化学反応のスピードを速めたり、効果を高くしたりする働きを持つのが、小俣教授の研究テーマである「触媒」です。「触媒を変えることで反応はまるで変わってきます。現在使われている触媒の中には、有限の天然資源のものもあり、新たな触媒を探す必要があります」。

供給リスクが懸念されている触媒の一つが、自動車の排ガスを処理する「ハニカム触媒」のメイン成分、白金です。有毒なガスを排出する車のマフラー内に、白金などの触媒を取りつけたハチの巣（ハニカム）状の筒を設置。二酸化炭素や窒素化合物など人体に有毒な3種類のガスが、触媒に接触することで無毒化されるという仕組みです。「電気自動車が登場してきているとはいえ、世界を見渡せばガソリン車の需要があります。電気自動車に使う電気を生み出す際に排出されるガスの問題もあります。触媒の可能性は尽きることはありません」。

ビッグデータや人工知能（AI）を活用した、マテリアルインフォマティクスによる触媒設計も始められています。「かつては高活性の触媒を開発、改良するために、実験を繰り返すしかありませんでした。しかし研究データを学習させたコンピュータは、人間には見抜けない元素の基礎的な性質を分析して、新たな結果を生み出してくれます。実験が非常に効率的になりましたね」。

3年前からは総合理工学研究科のノンデイグリープログラムとして、社会人学び直しコースを設置。ものづくりの現場などで働く研究者らに、数理的なモデルを使った触媒開発の手法を学んでもらい、低コスト・短納期での開発をバックアップしています。

小俣教授が触媒に関心を持ったきっかけは、10代半ばに経験したオイルショックでした。石油の代替燃料として、天然ガスや二酸化炭素などに含まれる炭素を、使いやすい液体燃料に変換する技術に惹かれたそうです。「技術開発などで新たな資源が見つかってきていますが、有限な資源を有効にかつ、環境にも優しく使っていく技術は今後も求められます」。

島根大学のココがすごい!

特色ある教育 2

今回紹介するのは… **キャリアデザインプログラム**

自分の未来を設計する!

キャリアデザインプログラム

(CDP)

島根大学では、これまで「就業力育成特別教育プログラム」の名称で、7つの観点から社会人基礎力を養う教育を行ってきました。これを基盤に、2017年4月より、地域志向型教育、とりわけ学外での活動を充実させた新たなプログラムがスタートしました。これがキャリアデザインプログラムです。

島大生の「未来づくり」を応援します!

キャリアデザインプログラムとは、全

学で実施するキャリア教育のための特別プログラムです。島大生が所属する学部で身につける「高度で実践的な専門性」を社会で活かしていくために、「社会の変化に対応する能力」や「生涯にわたり学び続けるための力や教養」を身につけることを目的にしています。働く前に生き方をデザインする。これは大学生生活だけに許された贅沢な時間です。学生の皆さんには「○○になる」だけではなく、どんな生き方をしたのか、何を表現したいのかをじっくり考えていただく機会を提供します。



私たちが担当しています!

履修学生だけの4つのメリットがあります



田中 久美子
専任教員
(ジョブキャリア担当)

丸山 実子
専任教員
(ライフキャリア担当)

①履修生だけの

限定セミナーを開催しています。有名企業



の社長を招いたり、スキルアップに関するセミナーを設けたりと、普通の座学では得られない力をつけることができます。また、②キャリアデザインに役立つ情報をメールで配信。セミナー内容や就職に関する豆知識などをお届けします。さらに、③たくさんの人となりがりの場も提供します。学内だけでなく県内の大学生や短大生、地元企業の方々との接点もあります。プログラムを修了すると「④修了証明書」が発行されます。就職活動において、以前は履歴書だけが重視

されてきましたが、近年は、証明書に焦点を当てる採用方法になってきています。プログラムを受けた証として発行される修了書は就職活動に有利です。

多彩な授業と活動で徐々にスキルアップ!

例えば、「キャリアデザイン」の授業

では、数年後く死まで、自分のライフキャリアシートを作成し、毎回学生同士でシートを見せ合い、少しずつ自らのライフキャリアを修正していきます。「就職とキャリア」では、企業の方を講師に招き、働くことを意識する内容を学んだ後、働くための力を養うため、グループワークやプレゼンを行います。学外での活動は、学生の皆さんが個々の興味や目指す方向に沿って、海外留学やインターンシップなど様々な経験を積んでいます。様々な体験を通じて、自身の未来を少しずつ具体的にしていきながら、それを実現するために今必要なことは何かを考え、行動に移していく力が徐々に身につけていきます。



島根大学では、学生が主体的な学びを通じて幅広い知識、広い視野、総合的な判断力を身につけ、人間への理解を深めるとともに、豊かな世界観を育むことを目的とした、様々な特色ある教育プログラムを展開しています。今回は、自分自身の未来を設計するキャリアデザインプログラムを紹介します。



CDPを履修しています!



三好 祐輝さん
法文学部
言語文化学科 3年

辻 紗菜さん
生物資源科学部
生命工学科 2年

様々な活動を通じて
社会人力を身につける!

辻:今まで自分の将来について考えることはあっても、どうしたら

将来「なりたいたい自分」になれるのか、というプロセスまで深く考えることはありませんでした。CDPを通じて、今の自分に何が足りないのか、どんな人間になりたいのか、どうすればなるのかということをしつくり考えることができ、さらにそこから行動に移すことができる環境が整っていると思います。

三好:CDPの特徴は履修者限定セミナーと学生主体のプロジェクト活動にあると思います。履修者限定セミナーでは自己実現のために必要な社会人力を身につけることができます。企業の方の生の声が聞けることやプレゼンテーションの仕方、文章の書き方、社会人としてのマナーなど、実践的なスキルを学べます。

学生主体のプロジェクト活動では、学生がプロジェクトを立ち上げ、企業や教育機関等の協力のもと学生が社会経験を積んでいます。同じ志をもった学生をCDP生から募ることができ、かつその活動の場を提供してくださる企業や学校をつなげてもらえることが魅力です。今後、もっと活動の幅を広げていきたいので、協力してください。学校を募っているところです。



将来のために
今やるべきことをする!

辻:将来は食品系の企業に就職し、食で人を幸せにしたいと考えています。「なりたいたい自分」に対しては、広い視野を持つて、どんな人の考えも尊重できる人間になりたいです。そのために、様々な経験をしたり、多くの人と接したりするように心がけています。

三好:私は高校の教員を目指しています。教員には教科の専門性と豊かな人間性が求められます。私は教員になる前段階として、大学生活でこの2つの力を育成することに励んでいます。教科の専門的な知識は授業で得られます。一方で豊かな人間性を育むためには人との関わり合いの中で様々な経験をすることが大切だと思います。CDPの活動や他の授業でのグループワーク、学内外で人間関係を構築できる経験は将来のためにとても大切にしています。



社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 03

無線技術者

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、松江市にある和幸株式会社で無線技術者として活躍する稲田さんに、大学での学びが現在の業務にどのように活かされているのか等うかがいました。

小さい頃から身近だった無線工学の分野で活躍
市民の安心安全を担う

アマチュア無線をやっていた祖父、父の影響で、幼い頃から無線が身近な存在だったという稲田さん。高校時代には物理部に所属し、電気や物理についてもっと学びたいと考え、島根大学総合理工学部に入学しました。物理や半導体、電気回路、回路設計など幅広い分野の中で、稲田さんが選んだのは「無線工学（電磁波工学）」でした。

在学中は、気象レーダーで観測した雨量の誤差を減らす研究をしていました。気象レーダーで観測した数値は、上空の雪や氷が

Profile

稲田 一輝 さん

和幸株式会社 情報通信事業部
安来市出身。2011年3月に総合理工学部電子制御システム工学科（現：機械・電気電子工学科）を卒業し、大学院へ進学。2013年3月に総合理工学研究科電子制御システム工学専攻（現：自然科学研究科理工学専攻）修了。同年4月に和幸株式会社に入社し、情報通信事業部において無線設備やテレメータの点検等に従事する。



デスクワーク中の稲田さん。現在は、技術管理課に所属しているが、技術課など他部署の仕事をサポートすることもあるという。

地域に密着した大学の研究内容や
貢献活動を知ることができ、
親近感を持ちました。

(島根県出雲市・50代男性)

いろいろな研究を
もっと市民に
発表してほしい。

(島根県松江市・30代男性)

島根大学は全く縁のないところと
思っていたのですが、興味を持てる事があるのだと
知り、嬉しい気持ちになりました。

(島根県松江市・70代女性)

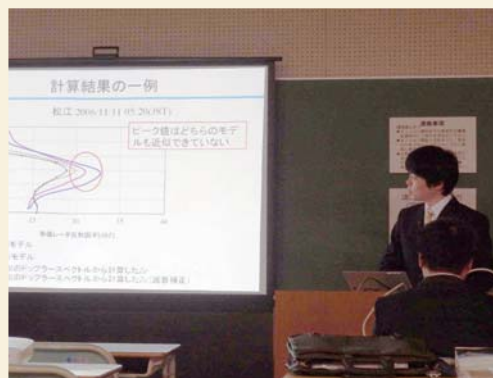


測定器の調整をしている稲田さん。

雨滴に変わる層において、実際の雨量と比べると過大評価してしまうことがあるのだとか。この層から返ってくる電波の強さのモデル化をする研究を行っていたそうです。「私がやっていた研究は、大学内にすべて設備が整っていたのでありがたかったです。研

究室の先生にも丁寧に指導いただいて、自然な流れで大学院に進学していました」。学部からの研究を継続していた大学院時代、地元で無線関係の仕事に就きたいと考えるようになり、松江市定住雇用推進課に相談に行つて出合ったのが現在の職場でした。

現在稲田さんは、防災行政無線や消防無線、河川テレメータをはじめ、多くの無線設備の保守などに従事しています。例えば、無線システムを導入したいというお客様のところで、実際に導入が可能なかどうか、回線の調査に行き、シミュレーションを行います。その後現場に行つて仮の無線機で実際に通信ができるか試した後、設計をおこない、依頼主へ報告するというのが一連の流れです。「主に官公庁向けの業務を請け負っているため、業務の性質上、一般の人からは見えづらい部分はあると思います。しかし、扱っているものは、使用不能になると私たちの安全や安心に直接関わる重要なものばかりなんです」と、その責任の重さを痛感しているといいます。



2012年10月の学会(電子情報通信学会中国支部連合大会)での研究発表の様子。

大学での学びが 今の業務に直結 やりがいを感じる毎日

入社6年目の現在でも、大学時代の教科書を引っぱりだしてきて参考にすることも。「大学の学びが今の仕事に直接結びついていると実感しています。無線工学の基礎はもちろん知識として役にたっていますし、集中講義で受けた『無線法規』の授業は、無線局の免許申請に関してお客様から問い合わせがあった際に役に立っています」。さらに、同学科卒業時に、現在の業務を行うための必須資格である「第一級陸上特殊無線技士」も取得。多くの人が入社後に取得するなか、

卒業時に取得できていたことは大きな強みになったといいます。活かされているのは専門知識だけにとどまりません。レポートや卒論の執筆、学会での発表等の機会があったことで、物事を論理的に考え、的確に伝える力も身に付いたといいます。「調査後には報告書を書くんですが、お客様から分りやすかったよ!と声をかけられると、大学でやっていたよかったですよ」。

島根大学で学んだ知識や技術を基礎に、業務に従事できることに、とてもやりがいを感じているという稲田さんですが、専門分野が同じだからこそ、大学時代にもっと勉強しておけば良かったと痛感しているそうです。「学生のうちは、単位を取ることに執着しがち。でもそこだけではなく、自分が興味のあること、やりたいことを見つけて、しっかりと取り組んでほしい」と後輩たちへ期待をこめます。「島根大学には、自分の専門を深められるだけの設備と環境が十分整っています。その環境を最大限に活用して、成長してほしいですね」と締めくくりました。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.38に
寄せられた声をお届けします。

総合博物館は子供たちが
喜びそうなので、ぜひ一度
行ってみたいですよ!!

(鳥根県益田市・30代女性)

社会で活躍する
卒業生濱岡さんのコーナーが
すごく良かったです。

(鳥根県隠岐郡・30代男性)

しまだい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

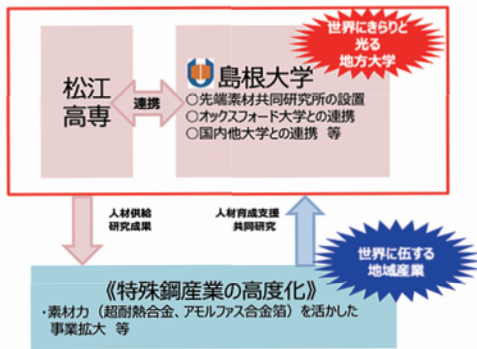
TOPICS

1

『先端金属素材の聖地』を目指す 「地方大学・地域産業創生交付金」が採択

この度、島根大学が参画し、島根県が申請していた内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」に「先端金属素材グローバル拠点の創出-Next Generation TATARA Project-」が採択されました。本事業では、「たたら製鉄」の伝統を受け継ぐ特殊鋼関連産業及び金属材料に係わる研究を強化、発展させることで、島根県を『先端金属素材の聖地』とし、地方創生を実現することを目指しています。この計画では研究開発・人材育成を担うのが島根大学の役割で、11月1日(木)に

先端金属素材グローバル拠点の創出 -Next Generation TATARA Project-



本学に「島根大学イノベーション創出機構先端素材共同研究所」を立ち上げ、各部門にリーダーとなる教員が配置され、研究を進めていきます。この分野に関心をもつ学生が世界トップレベルの教育を受けた後、島根の産業を牽引してくれることを目標とします。

TOPICS

2

様々なアイデアを実現させる新たな手法 島根大学の「クラウドファンディング」



寄付型

本学では寄附金の新しい形として4月1日(日)より「クラウドファンディング」を始めました。クラウドファンディングとは、アイデア実現のための資金を、インターネットを通じて多数の支援者から集める手法。この度、医学部藤谷昌司教授の「脳オルガノイドを作り神経発達障がい

TOPICS

3

島根大学総合博物館 入館者数一万人を達成!



6月に開館した島根大学総合博物館は、11月21日(水)、一万人目のお客様をお迎えすることができました。一万人目のお客様は、鳥取県倉吉市から大学訪問で来学された倉吉北高校の高校生で、記念セシモニーにて服部泰直学長より記念品が贈呈されました。今後とも、多くの学生や市民の皆様にご来館いただけるよう、本学所蔵の様々な学術資料を活用した、魅力ある展示や企画を行ってまいります。

普段は大学の情報などを
得る機会がありませんでしたが、
この冊子で最新情報を入手できました。
(島根県松江市・50代女性)

植物遺伝子の機能解明に
興味があります。ぜひ特集を
組んでほしいです。
(島根県出雲市・60代男性)

健康寿命を
長くするための案を情報提供して
ほしいです。
(島根県大田市・60代女性)

幼小中一貫教育の成果を基盤とした新しい附属学園



TOPICS

4

地域に貢献する教育研究機関としての機能強化を 附属小・中学校を義務教育学校に統合

島根大学教育学部附属学校園は、附属中学校、附属小学校、附属幼稚園、学習生活支援研究センターによって構成されており、平成20年より幼小中一貫教育に取り組んできました。今後、少子化による学校の統廃合が進む山陰地域において、義務教育学校設立を検討する地域や異なるタイプの一貫教育体制・形態が混在する地域の状況が予想されます。

こうした状況を踏まえ、平成31年度から、附属小・中学校を義務教育学校に統合し、義務教育学校や連携型一貫教育校などが混在する地域の現状に対応した「ハイブリッド型の義務教育学校」としてスタートする事となりました。また、義務教育学校への移行に先立ち、今年度から幼小接続教育の充実のため、幼稚園の教育体制も整備しました。

全国で初めて附属学校園の中に設置された子ども支援のための学習生活支援研究センターとともに、教育課程や教育組織、施設の活用法等を研究開発し、地域に貢献する附属学園としての一層の機能の強化をはかります。

TOPICS

5

身近で気軽な国際交流を かぼちゃのランタン作りに挑戦



10月29日(月)、外国語教育センターにて、留学生と日本人学生との交流イベント「Ebrok Halloween」かぼちゃのランタン作りに挑戦を開催し、交換留学生8名と日本人学生7名の計15名が参加しました。今回はハロウィンの時期にあわせ、3グループに分かれた学生達が協力してかぼちゃのランタン作りに挑戦。各グループで出来上がるたびに、会場全体で拍手と歓声が上がりました。

TOPICS

6

島根の文化を理解する 留学生研修旅行を実施



本学留学生が島根の文化を理解することを目的に、本学と包括協定を結んでいる邑南町にて、第9回「留学生研修旅行「邑南町」」を8月31日(金)～9月3日(月)に実施しました。今回は8カ国13名の留学生とサポート日本人学生3名、引率教職員3名の計19名が邑南町を訪問。久喜・大林銀山見学、農家民泊での田舎生活体験等で、邑南町の文化や人々の温かさに触れることができ、充実した体験となりました。

読者の声
Voice

広報しまだい
vol.38に
寄せられた声
をお届けします。

消費税や原発など、私たちの生活に
密着したテーマについて
ぜひ取り上げてほしい。

(鳥根県松江市・60代男性)

島根大学発のベンチャーから、
抗がん剤が早く出来ることを願っています。

(鳥根県米子市・70代女性)

7

地域社会の発展と地域人材の育成に寄与
益田市と包括的連携に関する協定を締結



8月28日(火)、服部泰直学長、益田市の山本浩章市長ほか関係者が出席し、本学と同市との包括的連携に関する協定の締結式を行いました。

これまで本学と同市とは、主に医学部を中心として医師派遣や医療、保健、福祉分野での連携を行ってききましたが、この度の協定締結により、まちづくり、人材育成、産業振興、教育・文化の振興などを含めて、より緊密な連携・協力を推進していくこととなりました。

締結式で服部学長からは、「今回を機に、これまでの医学部を中心とした連携活動から、全学的な連携へ強化し、地方創生に取り組んでいきたい」と挨拶があり、山本市長からは、「相互の関係をより強化し、将来的に地域の振興に貢献できる人材の育成を一緒に進めていきたい」と意欲を示されました。

この益田市との協定締結により、島根大学の連携協定機関は、自治体17、警察1、国2、公設試験研究機関1、企業6、財団法人1、NPO法人1、経済団体1、社会福祉法人1、高等教育機関4、その他団体3の計38機関となりました。

8

松江東高等学校生徒が当学を訪問
「ダイガクジャーニー」を実施



10月16日(火)、松江東高校の大学訪問を行い、高大接続の新しい取り組みとして「ダイガクジャーニー」と称したワークショップを実施しました。この取り組みは、大学の学部だけでなく、大学全体の機能に目を向けることで「高校と大学の意味的・本質的な違い」に気づくことを目的に、大学内を取材してレポート記事を作成します。参加した生徒からは「このような訓練で視野を広げたい」などの感想が聞かれました。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなの力をあわせて
森林を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6240
<https://www.shimadei.coop/>

新聞の折り込みで WEB サイトで フリーペーパーで

お仕事見つかる
メリット

求人情報

鳥取・島根のおしごと探し
メリット

鳥取・島根のおしごとサーバー
Webメリット

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

アーチェリー部



1. 現在の部員数は、男性25名、女性13名の計38名。体育系・文化系出身者が混じった個性豊かなメンバーが集まっています。2. アーチェリー場は50メートルの距離まで練習可能。個々のレベルに合わせて距離の異なる形で練習します。

部員の意見を取り入れつつ試合を意識した練習を

今年で創部50年を迎えるアーチェリー部。活動は週に2回、部員の9割が大学から始めた初心者で、競技人口の多いリカーブを使用し、部員同士で教え合いながら練習に励んでいます。競技に出られるぐらいに上達するには、平均半年～1年かかるそうです。「今年度は1年生の入部が多く、みんな練習熱心なので、試合を見据えた練習を積極的に行っています」と主将の芦沢さんは言います。1年間の大会のうち、11月下旬に開催される中国五大学大会が、最も力を入れている大会です。新しく入った1年生たちが、次の年の五大学大会で活躍してくれればと、芦沢さんは期待をこめます。

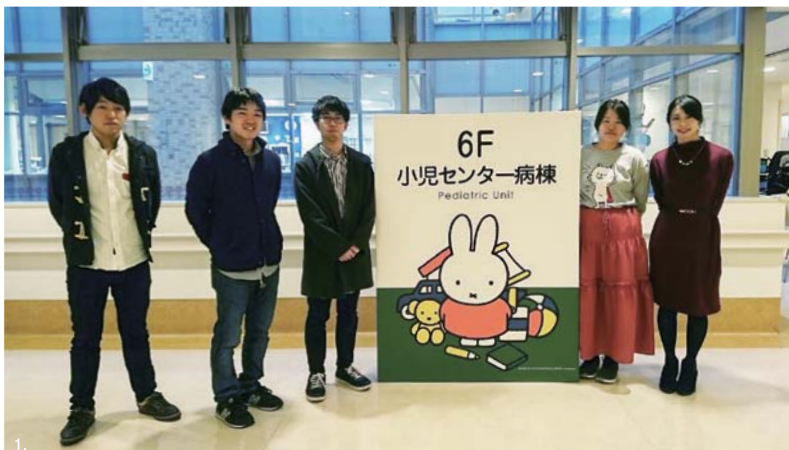


様々な遊びで子どもたちを笑顔に！

ドイツ語で「子ども」と「楽しむ」という意味を持つキンダーフロイント。入院する子どもたちに楽しい時間を提供し、気持ちから元気になってもらいたいと、月2回、附属病院小児科に足を運んでいます。折り紙を折ったり、おもちゃ遊びをしたり、スライム作りをしたりと、毎回内容は様々です。「メンバーの中には将来、小児科を目指す人も少なくありません」と話す代表の田中さんも、小児科を志す一人です。一番の醍醐味は「子どもたちの笑顔が見られること」ですが、実際に子どもと接する機会が持てることも貴重な経験となっています。この経験が、医学生たちの将来にも繋がっているようです。

出雲キャンパス

キンダーフロイント



1. 附属病院での活動以外に、地域の子どもの対象にしたぬいぐるみ病院の活動も行っています。保健教育や、病院嫌いの子どもたちに病院に慣れてもらうためのお医者さんごっこなどを行っています。2. 附属病院小児科で人気だったスライム作りの様子。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附の税制優遇措置(寄附金控除)をご存知ですか?

島根大学へのご寄附は寄附金控除の対象となっており、本学が発行する「寄附金領収書」を添えて確定申告(還付申告)を行うことにより、税制上の優遇措置を受けることができます。

- 【個人の皆様】**
- 「島根大学支援基金」使途A(経済的理由により修学が困難な学生に対する支援)へのご寄附
→寄附者様において**税額控除**または**所得控除**どちらか有利な制度をご選択いただけます。
 - 「島根大学支援基金」使途B(大学の教育・研究活動等に対する支援)へのご寄附
「島根大学支援基金」使途C(附属学校園の教育活動等に対する支援)へのご寄附
→**所得控除**の制度が適用されます。

【法人様】 法人税法第37条第3項第2号により、全額損金算入が認められております。

詳しくは支援基金HP「税制上の優遇措置」をご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。なお、お電話でのご請求も承っております。
(TEL 0852-32-6015)

島根大学支援基金

TOP > 寄附の特典 > 島根大学支援基金の税制上の優遇措置

HP「税制上の優遇措置」

パンフレット請求フォーム



支援学生からの感謝の声

法文学部 4年 京面 華菜恵さん
(平成29年度 海外派遣学生支援制度奨学金 受給者)

皆様からの支援により、アメリカ合衆国での9か月の交換留学が実りのある貴重な体験となったこと心よりお礼申し上げます。初めての海外長期滞在で不安や緊張を感じる時期もありましたが、心優しい現地の方々を支えられ、日本と異なる環境や文化の中で過ごす事により充実した生活を送ることができ、そしてこれまでよりも広い視野や多角的な考え方をできるようになりました。交換留学で学んだことをその時限りの収穫にせず、今後の自分の行いで反映できるように精進していきたいと思っております。



島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただきありがとうございます。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※平成30年8月16日～11月15日までに年度内寄附累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

個人からのご寄附

新井清市	井上憲一	岩田 奨	岩本秀俊	植田敏也	植田英夫	上野 誠	漆谷壽美子	大浜誠一郎	岡田光弘
小川 巖	沖貝 浩	加藤寿朗	神谷年洋	吉川通彦	木村 猛	河野美江	坂田正昭	佐藤利夫	地阪光生
下田好之	周藤憲正	須山弘一	千家充伸	出口 顕	永森忠嗣	名取瑞樹	並河 徹	難波博康	西野義彰
長谷川博史	浜田 太	肥後功一	平田泰弘	廣瀬昌博	福岡栄子	松浦晃幸	松浦良紀	松田克己	武藤哲也
棟石 均	村瀬俊樹	山崎文子	山梨祥子	山本則文	横山統晨	吉見 顕	渡邊正人		

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

チームの命運を握る新外国人選手にインタビュー

「B1リーグ昇格」を目標に、今季はB2リーグの舞台で戦う島根スサノオマジック。昨季悔しい想いを共にしたブースターのためにも、最短1年での振り返りを誓う。今回は、既にチームに欠かせない存在となった新外国人選手にインタビュー。チームや個人の近況をうかがった。

—日本での生活には慣れましたか?

アレン選手:日本に来ることは、私にとって大きな環境の変化になりましたが、想像以上に早く溶け込みました。みんな快く受け入れてくれたし、松江の街も非常に気に入りましたよ。

ニチュケ選手:こちらに来る前は、特に食のことを心配していましたが、実際に来てみると食べ物は何でもあるし、思った以上にカルチャーショックは少なかったです。日本の人はとても親切で、松江の街もすごくきれいですね。

—試合ではどんなプレーを見せたいですか?

アレン選手:スピードはストロングポイントのひとつだと思っています。身長の高さで優位に立とうとするチームも多いですが、自分のスピードを活かしてチームに貢献できれば良いですね。

ニチュケ選手:私はもともと、スコアを追う選手ではありません。大事なのは、アジャストすること。僕自身の数字を追うよりも、今チームに何が 필요한かを理解してプレーしたい。そのことに集中するだけです。

—ブースターの方々にメッセージをお願いします。

アレン選手:どんな苦しい状況にあっても、僕らにできることは、練習を重ねて試合で全てを出し切ること以外にありません。それが全てだし、そのことに集中したい。サポーターの皆さんの想いはとても伝わっています。

ニチュケ選手:序盤は黒星もありましたが、シーズンは60試合あります。自身が戦う以上、みなさんも一緒に信じて戦ってほしいと思います。ぜひ熱い応援をよろしくお願いします。



profile

#25 SF
ロスコ・アレン 選手
ハンガリー出身 1993年5月5日生
208cm / 100kg

profile

#8 C
グレゴリー・エチェニケ 選手
ベネズエラ出身 1990年11月23日生
208cm / 120kg

島根スサノオマジックの最新情報は…

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/>

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 ☎0852-60-1866 (平日10時~18時)
また、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

さて今号では、学長対談や地域で活躍する学生について特集し、これからの島根大学の方針や学生が地域で取り組む姿を紹介させていただきました。また「しまだい便り」にてご紹介している島根大学が参画し島根県が申請している「地方大学・地方産業創生交付金」がこのたび採択され、今号でも取り上げた地域との交流や島根に魅力を感じる人間力のある人材育成、地元企業との連携がますます必要となっていく。今回採択された事業が目指す「キラリと光る地方大学づくり」を本学はこれからさらに進めていきます。広報しまだいではこのような取り組みも含め様々な情報を発信してまいります。本年も引き続きよろしくお願いいたします。



美保関古民家での撮影の様子

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

こちらからもアクセスできます

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630



E-mail
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

HP
<https://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「ブルーベリージャム(1瓶)」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。

※応募締切/平成31年3月8日(金)必着



出雲 古代出雲と吉備 古代文化VII フォーラム

Forum on Ancient Izumo Culture

中国山地をはさんで隣りあう大国、吉備と出雲。二つの地域は、考古学や文献史学の研究上、きわめて重要な位置を占めています。

今回のフォーラムでは、最新の研究成果をもとに、吉備と出雲における弥生時代の王墓や古代の製鉄の実態に迫り、二つの地域の関係や交流についても考えていきます。

平成31年 3月3日(日)

13:00~16:30

会場 山陽新聞社さん太ホール
岡山県岡山市北区柳町2丁目1-1

開場 12:00 開演 13:00

定員 300名 参加費 無料

参加にはお申し込みが必要です。

(事前にお申し込みいただいた方には、後日入場整理券を交付します)



西谷2号墓



雲南市鉄穴内遺跡出土製鉄関係遺物
(提供:島根県教育庁埋蔵文化財調査センター)



【主催】島根大学

【共催】島根県・島根県教育委員会・松江市・出雲市・安来市・雲南市・呉出雲町・飯南町

【後援】文化庁・TSK山陰中央テレビ・山陰中央新報社・BSS山陰放送・日本海テレビ・株式会社山陰合同銀行
岡山県・岡山県教育委員会・公益社団法人岡山県文化連盟・岡山県郷土文化財団・山陽新聞社
RSK山陽放送

倉敷市榎築墳丘墓(撮影:小倉 謙)

お問合せ



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

島根大学企画部企画広報情報課 TEL 0852-32-6603

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 E-mail: forum@office.shimane-u.ac.jp